

## 皆様へのお願い



イベントや建物見学について  
ヤマモトロックマシン株式会社  
へ直接問い合わせるのは  
おやめください。

ヤマモトロックマシンの建物は会社が所有しており、その多くは現在も業務に使用されています。建物内部は通常非公開です。敷地についてもイベント時などの開放時を除き、許可なく立ち入ることはできません。

ヤマモトロックマシン旧自治寮活用プロジェクトは地元住民の有志にて運営しております。本プロジェクトやイベント、建物の見学について会社へ直接問い合わせる行為は、業務に支障し会社側のご迷惑となりますので、おやめください。

(この冊子および本プロジェクト全般の問い合わせは下記へ)

## ヤマモトロックマシン旧自治寮活用プロジェクト



| address | 広島県庄原市東城町川東 1161-18  
| phone | 08477-2-4544 (空間設計事務所内)  
| email | yamamoto\_project\_14@yahoo.co.jp  
| facebook | www.facebook.com/YRMPtojo

## ヤマモトロックマシン施設群 その建築と時代

発行 ヤマモトロックマシン株式会社

東新会

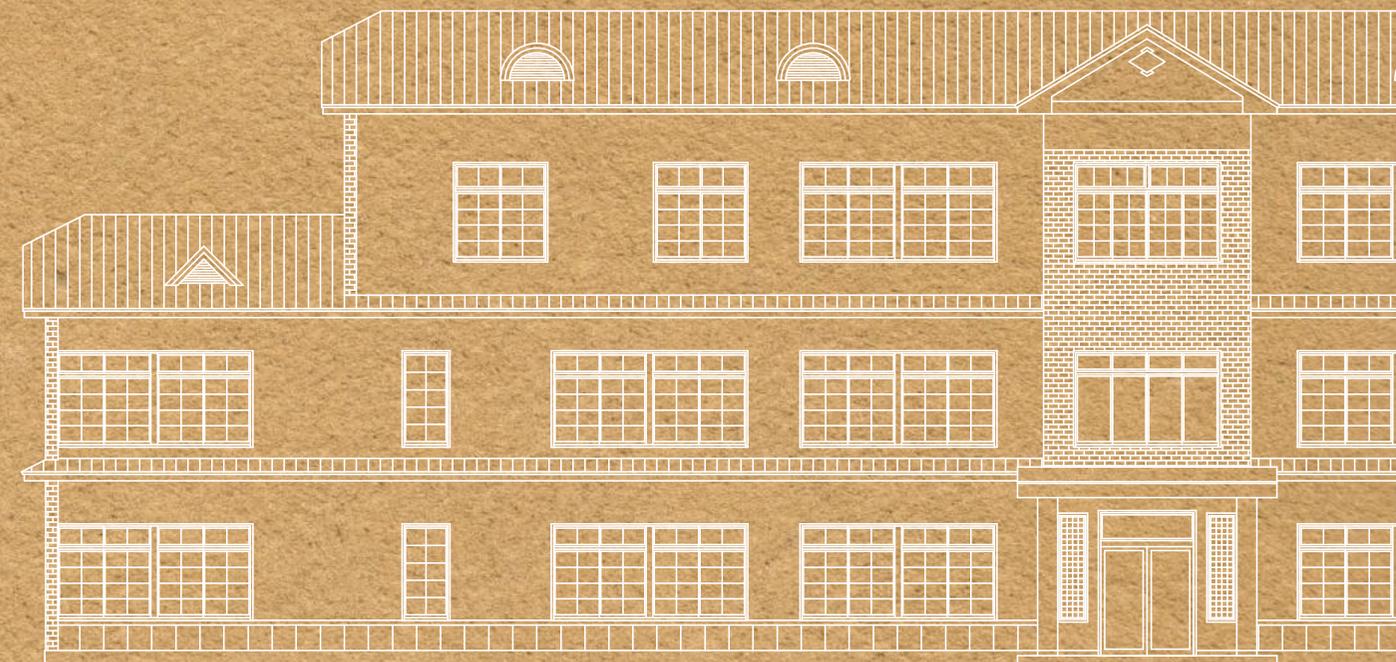
制作 アーキウォーク広島

2021年(令和3年)9月1日発行

国登録有形文化財

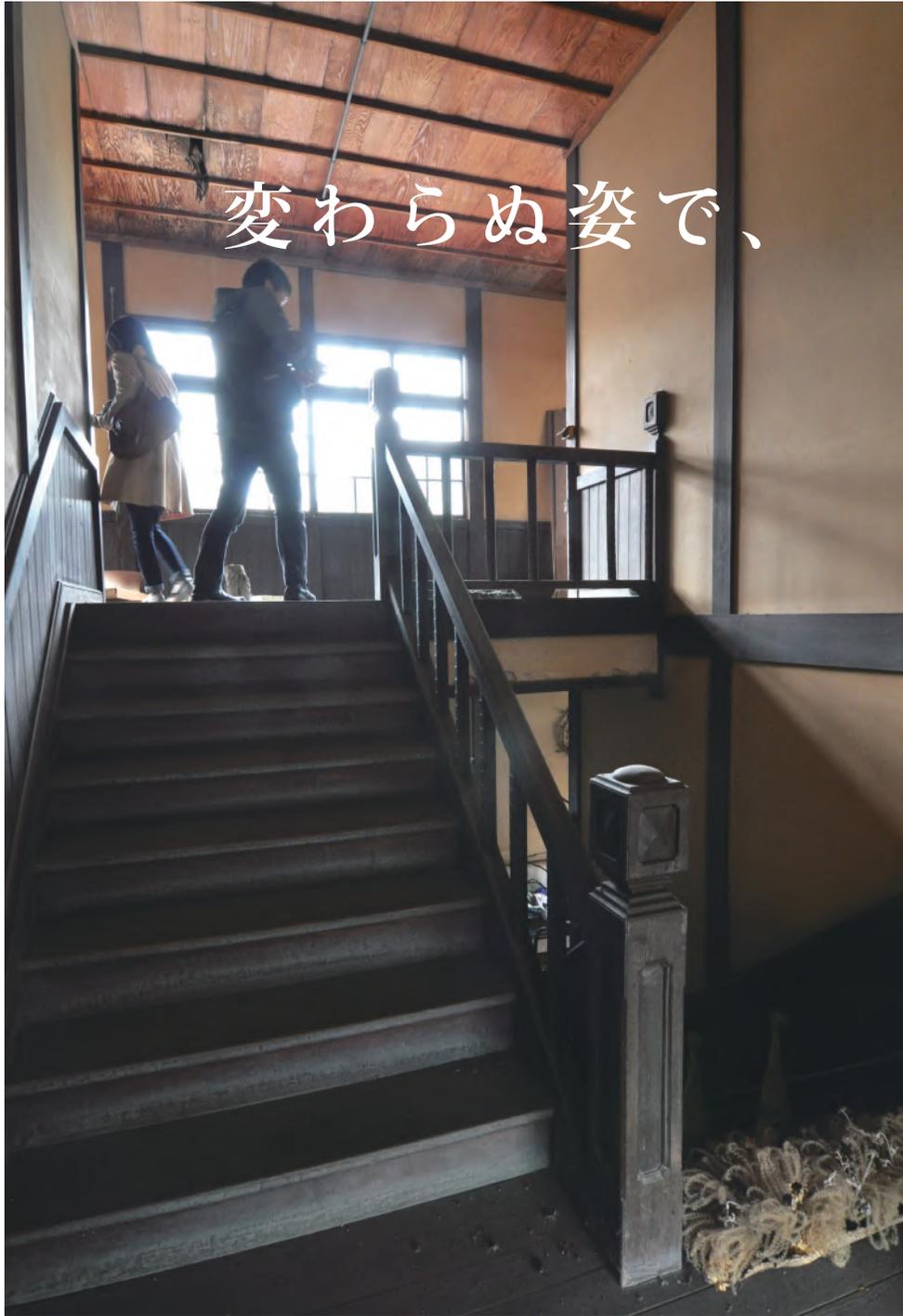
# ヤマモトロックマシン施設群 その建築と時代

The Company Buildings of YAMAMOTO ROCK MACHINE CO.



東城に開いた、昭和レトロの花。





# ヤマモトロックマシン施設群へようこそ！

中国山地の山間のまち、東城。ヤマモトロックマシン（旧山本鉄工所）の施設群は、歴史的な街並みも残建物の多くは昭和初期の木造であり、進取の気性に富んだ実業家山本集一氏が、地元の大工棟梁である曾たものです。日本の木造建築の黄金期にあたる当時と変わらぬ姿を今もとどめており、広島県内のみならず近代化遺産となっています。

この冊子では、国登録有形文化財ともなったヤマモトロックマシンの施設群をご紹介します。現地では建ますので、注意事項をご覧のうえ、ぜひ東城へ足をお運びください。

る古都の一角にあります。田敏郎氏を起用して建てず全国でも有数の優れた

物見学会も開催して参り



## 注意事項

**!** この冊子で紹介する建物は、普段は非公開です。内部見学は建物見学会等の機会をご利用ください。

ヤマモトロックマシンの建物は会社が所有しており、その多くは現在も業務に使用されています。建物の内部は普段は非公開となっています。敷地についてもイベントなどの開放時を除いて、許可なく立入ることはできません。ヤマモトロックマシン旧自治療活用プロジェクトでは建物見学会等を実施してまいりますので、それらの機会をご利用ください。

**!** イベントや建物見学などについて、会社側へ直接問い合わせるのは、おやめください。

ヤマモトロックマシン旧自治療活用プロジェクトは地元住民の有志で運営しております。イベント等についてヤマモトロックマシン株式会社へ直接問合せの行為は会社側のご迷惑となりますので、おやめください。

**!** 建物見学会においても注意事項がございます。

建物内には足元の悪い箇所等があります。建物見学会では係員の誘導に従い注意してご見学ください。イベントにおける負傷や器物破損、盗難被害等について、イベント主催者は一切の責任を負いませんので、予めご了承ください。

## お問い合わせ先

### ヤマモトロックマシン旧自治療活用プロジェクト

広島県庄原市東城町川東 1161-18 [phone] 08477-2-4544 (空間設計事務所内)  
[email] yamamoto\_project\_14@yahoo.co.jp [fb] www.facebook.com/YRMPtojo

## 現地へのアクセス

広島・福山・大阪からバスが運行されています。本数が少ないため、予め時刻表をご確認ください。

広島	自家用車 120分 (中国自動車道利用)	東城小学校前	徒歩 5分
	広島センター 高速バス 150分		
福山	福山駅 路線バス 120分	東城	徒歩 10分
	自家用車 100分 (一般道利用)		
大阪	新大阪駅 高速バス 250分	ヤマモトロックマシン施設群	
	自家用車 180分 (中国自動車道利用)		



# A 家族寮

1937年(昭和12年)木造3階建  
大工棟梁 曾田敏郎

明るい緑色の洋瓦

ドーマー窓

社章であるY字のマーク

旧自治寮のシンボルとなっている木造3階建てで、日本の木造建築技術が頂点を極めた昭和初期に建てられました。外観は洋風で、瓦も珍しい欧州風のものが使われ、小さなドーマー窓も付いているなど、和風の町家が建ち並ぶ東城ではひととき目を引くハイカラな建物でした。室内はうってかわって和風テイスト。1~2階は家族寮として一部屋を一つの家族が使い、3階は全体を広く使った集会室となっています。片廊下式で、共用廊下にも大きな窓が付き、障子を通して居室内に自然光を取り入れる設計になっています。居室は畳敷で、床に座る生活スタイルに合わせて窓は低い位置にあります。イスが前提の洋館との大きな違いです。

驚かされるのは、薄い障子一枚だけで仕切られた集合住宅でいくつもの家族が共同生活を送っていたという点です。このような設計はプライバシーが重視される現代では考えられません。今よりはるかに密な人間関係の中で、大家族のような共同体を営んでいた古き良き日本の集住の様相を、この建物からうかがい知ることができます。こうした昭和初期の生活ぶりを、タイムカプセルのように留めているのがこの建物の最大の魅力でしょう。壁だけでなく木製窓枠や照明に至るまで、当時のものがそのまま残されているのも大変貴重です。他の建物とともに、後世に残すべきすぐれた遺産といえます。



建てられた当時は電灯も暗かったため、共用廊下にも大きな窓を付け、障子を通して自然光を室内に入れていました。



玄関をくぐると、すぐ左手に舎監(管理人)室があります。窓は全面ガラスです。



窓の位置が低い。

角部屋は二面採光から光が入ります。廊下側と異なり居室の窓は低め。



3階は大きな集会所となっています。最盛期にはここでも工員さんたちが寝泊まりしていたそうです。



往時の姿。薄い障子だけで区切られた集合住宅は現代では考えられず、当時の濃密な暮らしぶりをしのばせます。

# B 独身寮

1941年(昭和16年)木造2階建  
大工棟梁 曾田敏郎



窓の位置が低い。

旧自治寮のなかでは比較的新しい建物で、片廊下式の2階建てです。基本的な設計は家族寮と同じですが、共用部のないシンプルな構成となっています。こちらは主に単身者向けの寮で、それぞれの居室では最大8名が寝泊まりしていました。若干ある個室は年長者が使っていたようです。



東側外観。成羽川を望む立地にあります。

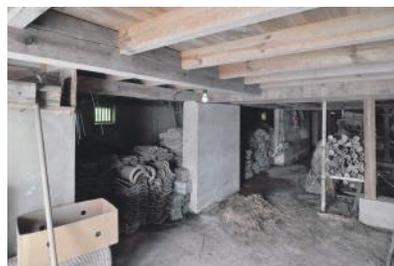


階段のデザインは家族寮と同じ。ゆとりある階段室は日本の伝統的な家屋には無いもので、洋館に由来する要素です。



最大8名が相部屋室内には私物を入っています。も

になる想定であり、れるロッカーが備わちろん木製です。



床下の基礎はコンクリートで固められています。見えないところにもしっかりとお金がかけられているのが分かります。



入口の下駄箱には達筆な舎監さんの注意書きが。建物以外にもこういった生活感のあるものが多く残っています。

# C 食堂・娯楽棟

1937年(昭和12年)木造2階建 大工棟梁 曾田敏郎

家族寮、独身寮に挟まれて建っているのが食堂・娯楽棟です。建物はL字型で、洋館部分は1階が食堂で2階が娯楽室<sup>\*</sup>。平屋の和館部分は調理場と調理師部屋でした。

最盛期の東城は今よりもにぎやかで、映画館やパチンコ屋がいくつもありましたが、碁盤や卓球台を備えた娯楽室は、工員さんたちが仕事後の余暇を過ごす場として役立っていたことでしょう。

※当初は2階も食堂だったようです。



独身寮から向かって左側が娯楽室・食堂で、右側が調理場・調理師部屋。手前の庭園は往時はきれいに保たれていたといえます。



娯楽室バルコニーを支える金具(持ち送りといえます)には社章のYが。同じ物は他にもあるので探してみてください。



当時の電灯カバーも貴重なものは昭和初期に流行したアール・デコ調のデザイン。



美しい天井は鉄板を整形したものです。社内で製作したものか外から買ったものかは分かっていません。



往時の姿。碁盤の他に卓球台や輪投げもあつたことが分かります。内装は今とほぼ同じです。

# D 第一工場

1934年(昭和9年)新築  
1938年(昭和13年)増築 木造平屋  
大工棟梁 曾田敏郎

削岩機の製造で会社が大きく発展した昭和初期に建てられた木造の工場建屋です。外観は、創業者の西洋趣味を反映してか、西欧の教会建築を思わせるファサード(正面)を持ち、窓は日本では珍しい縦長の上げ下げ式で、当時のままの木製窓枠がずらりと並んでいます。一方、建物上部に目を転じると、明かり通りの窓は横長となっており、一転して工場らしいモダンな印象を与えています。

内部に入ると、中央の通路を挟んで整然と並ぶ工作機械から、ここが現役のものづくりの場であることをうかがわせます。当初は集中動力を採用しており、シャフトやモーターを支えるために柱は硬いクリ材で頑丈に作られ、80年経った今でも狂いはないといえます。国内最高クラスの、生きた産業遺産といえるでしょう。

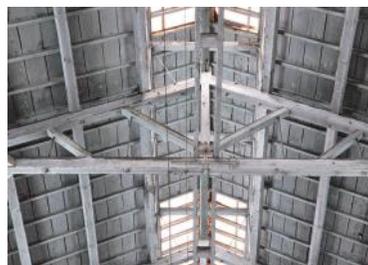


建屋の正面は教会建築を思わせる姿です。アーチ窓は本来木造にはない要素であり、純粋にデザインしたものと思われます。



上部の窓は横長でモダン  
下部の窓は縦長でレトロ

側面を見ると、縦長で上げ下げ式の窓が並んでいます。一方、上部の明かり通りの窓は横長でモダンな印象です。

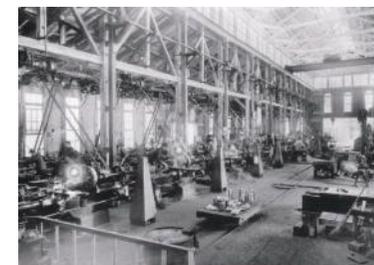


屋根裏の木製トラスも、じっくり鑑賞したくなる

美しさ。



内部には、戦前の工作機械(左)や手動クレーン(右)など、建物以外にも多くの見どころがあります。



往時の姿。当初は一つのモーターからシャフトとベルトで個々の機械に動力を伝えていました。

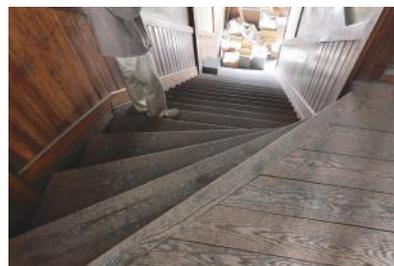
# E 青年学校

1938年(昭和13年)木造2階建  
大工棟梁 曾田敏郎

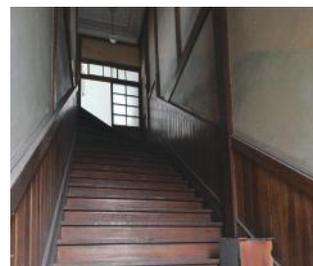
山本鉄工所(当時)には工場で働きながら夜間高校に通って勉強できる養成工というシステムがあり、第一工場の手前に社内教育用の教室を備えた2階建ての建物が建てられました。現在は使われていませんが、往時の姿がほぼ完全な形で残されています。



教室のある2階には採光のため横長の大きな窓が設けられています。1階は他の建物と同様に縦長の窓で、当初から倉庫だったようです。



2階に上がる階段。コーナー部で曲げられており、大工さんの丁寧な仕事ぶりがかがえます。



2階に上がる階段を下から見上げる。



他の建物と同様に、天井は鉄板となっています。シンプルな照明もかなりの年代物のようです。



当時の教室の様子。ここで多くの養成工たちが学んでいました。(詳しくはP.22)

## F 第二工場

1937年(昭和12年)木造平屋  
大工棟梁 曾田敏郎

第一工場に隣接する建屋。横長の明り通りの窓は第一工場と共通ですが、隣地側の壁には窓を付けない工夫が見られます。



## G 仕上工場

1937年(昭和12年)木造平屋  
大工棟梁 曾田敏郎

屋根裏の木製トラスは他と違って個性的なかたち(クイーンポストトラスという)。妻側の窓は、アーチの下に上げ下げ式を二つ並べる珍しい形式です。



## H 便所棟

1939年(昭和14年)木造平屋  
大工棟梁 曾田敏郎

従業員向けのトイレ施設。いたってシンプルな建物ですが、当時としては最新の水洗式で、寒さ対策で窓を二重にする工夫も見られます。往時のまま使用されていることも貴重です。



## 失われた建物

### ① 浴室(旧自治療エリア)

1937年(昭和12年)木造平屋



旧自治療の敷地に入っすぐの場所に浴室が設けられていました。男女別の浴室に大きな浴槽を備え、素朴な中にも品のあるたたずまいです。当時は職員さんだけでなく、地域の人も利用していたそうです。

残念ながら道路拡幅のため2012年に解体され現存しません。



### ② 守衛所(工場エリア)

1938年(昭和13年)木造平屋



青年学校の北隣に、かつて守衛所がありました。小規模ながら、丸窓やスクラッチタイルに彩られた印象的な建物でした。



当初は第一工場の目前に門と守衛所がありました。

# 建物と人をめぐるものがたり

## ヤマモトロックマシン（旧社名：山本鉄工所）の誕生と発展

### 東城と鉄とのかかわり

中国山地のただ中にあり、古くから商都として栄えた東城。ヤマモトロックマシンの工場や旧自治寮などの建物は、その歴史ある街並みの一角にあります。

江戸時代の東城は山間部と沿岸部を結ぶ物流の拠点でしたが、中でもたたら製鉄で製造される鉄は中国山地の村々を支える地場産品であり、東城の商人にとっても重要な商材でした。たたら製鉄は明治以降の近代化の中で衰退・消滅に向かいますが、東城周辺には砂鉄を用いた近代的な製鉄所（現存しない）が建つなど、鉄に縁のある土地柄であったようです。

### 削岩機の国産化に挑む

山本鉄工所初代社長である山本集一氏は東京に出て東京外国語学校（現東京外大）に学ぶほど海外志向の強い人物でしたが、東城の実家に呼

び戻され、小さな鋳物工場を引き取って 1915 年に山本鋳造鉄工所を開きます。細々と鍋を作る程度だった工場にとって転機となったのはダム工事でした。大正時代は工業化に伴い電力需要が急増したこともあり、発電所建設が全国的なブームとなり、帝釈峡でも水力発電用ダムの建設工事が始まります（帝釈川ダムとして現存）。やがて故障した外国製削岩機が修理のため山本鉄工所に持ち込まれるようになり、それを見た山本氏は削岩機の自社開発を思い立ちます。山本氏は得意の語学力を武器に海外の専門書を読み込んで猛勉強し、最も重要な熱処理の技術はドイツ人技師を招いて学ぶなど苦心のすえ、1927 年についに削岩機の国産化に成功。工場を拡張して生産を始めました。はたしてこの削岩機は大ヒットし、各地の鉱山や工事現場へ飛ぶように売れていったといいます。1939 年には株式会社となり、東京丸の内丸ビルにオフィスを構えるなど、会社も大きく発展していきました。

### 建物に投影された西欧趣味

現在見ることのできるヤマモトロックマシンのハイカラな施設群は、まさに削岩機製造で会社が急成長していた昭和戦前期に建てられたものです。そのデザインには山本集一氏の強い思いが投影されています。

最も分かりやすいのは第一工場（P.13）で、明らかに三廊式バシリカという西欧の教会建築のスタイルを意識しています。当時は既に無国籍なモダニズムという建築スタイルが日本にも浸透しているはずなのに、あえて西欧の伝統に基づく縦長窓やアーチ窓を使い、上げ下げ式の窓枠を付けるところに、東城にあっても常に洋風の生活スタイルで通していたという山本氏の西欧趣味の深さを感じます。

ただ、鉄工所にも関わらず建物に鉄を使っていない理由は分かりません。おそらく戦時下の資材統制のほか、木造で十分という山本氏の合理的精神によるものではないかと推測しています。

### これぞ本物の普請道楽

山本氏の場合は急激に成功した他の実業家たちとは少し違って、自邸だけでなく工場や寄宿舎（自治寮）のグレードアップをしているのが興味深いところです。しかも見た目の派手さではなく、建物の基礎や柱、水道などのインフラにしっかりとお金をかけています。築 80 年を超えても現役の工場として狂いなく使い続けられているのがその証です。

曾田敏郎という地元の大工を長期にわたって起用し、育てていることも見逃せません。山本鉄工所の施設群の設計者は不明ですが、曾田氏がかんりの部分を担ったのは間違いなく、一人であらゆる建物をデザインしているので全体の統一感も生まれ、秩序ある美しい工場の風景を作ること成功しています。

これこそまさに本物の普請道楽。広島県内ではこの規模・質を持つものは（官営工場を除くと）他に現存しておらず、極めて貴重です。

完成当時の帝釈川ダム。山本鉄工所はこのダム工事を契機に削岩機の開発に挑んだ。



初代社長 山本集一氏



2代社長 山本博介氏



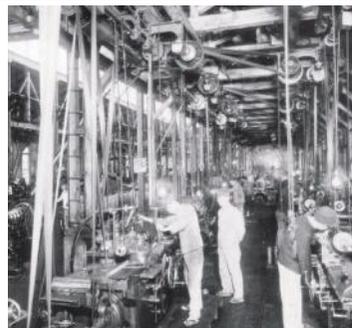
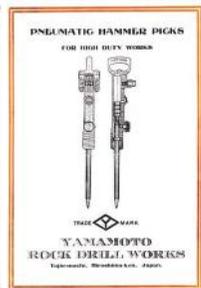
3代社長 泉周市氏



4代社長 山本勝俊氏



5代社長 山本将登氏



鉄工所では鋳造のための木型を多用する。今も残る木型の数々からは、当時の高度な木工技術の蓄積がうかがわれる。



# 自治寮の思い出

工場OBの皆さんに昔（昭和30～50年頃）のお話をうかがいました。

## ふだんの寮の様子

—寮での思い出を聞かせてください。

■食堂の前はね、今は雑草が生い茂ってるけど、昔は何人かグループできれいに手入れをしっかりと、花見をしましたよ。サツキが綺麗に咲いてね。

■社長の山本集一さんは、ものすごいきれい好き。いつもきれいに手入れしてあって。

■食堂上の娛樂室。あそこで卓球しよった。

■娛樂室の手前の小部屋は何に使いよったか？わしゃ本を読んどった記憶が。

■昭和33～34年頃だったか、食堂へ一台だけテレビが入ったんですよ。そしたらもう家族も皆食堂へ行くようになって、夕方の大相撲から遅くまで見てたな。

—社員のどのくらいが寮に入っていましたか？

■だいたい半分は寮に入っていたと思う。家から通勤してくる人も、けっこう昼飯は寮の

食堂で食べよった。

—昼になると工場から寮に戻ってきて食べていたのですか？

■そうそう。昔は工場と寮間の道路も狭くて、つながってたから。

—ご飯のお金は給料から天引きですか？

■そう、引かれよったね。

■おばさんが4人専従でおっちゃってね。大きな釜でご飯炊いてたな。三食とも麦飯。麦いうても今みたいにきれいなんじゃないが、炊きたてはおいしかったな。

■カレーライスも麦飯じゃし。

■食堂の名物があつたら。麦飯のいなりが。大きさは今の市販の油揚げを半分に切ったくらい。

■麦飯は健康に非常によい言うて、強制的に食べさせられたわけよ。

■食料事情も悪かったしな。

■舎監さんも、寮生が脚気になっちゃいけんけえ

って言いよった。

## 休日の過ごしかた

—休日は何をされていましたか？

■町に出て映画を見るか、パチンコか、飲み屋に行くか、あとは寮で麻雀をするか。娯楽が少なかったからな。

■まあ、だいたい朝からどの部屋でも麻雀をしとったな。土曜日の晩は徹夜でね。

—麻雀以外だと？

■映画館が東城に3つあって、月の初めには広告を出すんですよ。で、これとこれを行きたいというて印をつけて。安月給でよう行きよった。どうしても行けんときは町に一つある質屋へ背広を持って行ってね。上だけで500円、下だけで500円。それから革靴で500円。

—映画はその頃いくらでしたか？

■200円台じゃったと思う。質に入れた背広は流さずに月末には回収して。寮の人は金が無かつたけえ、みんなしよった。

## 養成工のこと

—養成工について教えてください。

■養成工という制度はたしか戦前からあって、中学卒業してすぐ会社に入って、昼間は工場で働いて夜間高校に通つとった。大半が、津山、高梁、三次、庄原といった外部の人でね、高校に通えるというので結構競争率が高くて、みな頭がいい。一番多いときで30人か40人くらいか。養成工はみな寮へ住んどったですよ。

■入社して半年くらい養成期間があつて、午前中に会社の授業がある。

—授業に使った教室（青年学校）が今でも残っていますね。



■授業にもちゃんと時間割があって、設計担当が製図を教え、工作担当が機械工作、焼入れ関係の人が熱処理や材料、労務担当が法規。午後は現場で仕事をする。

■教科書もあったよの。

—養成工の人たちは勉強を一生懸命してるから、麻雀に手を染めたりはしないんですか？

■学生はそりゃ忙しくて、あまりしよらんかった。5時まで仕事して、ご飯食べて風呂入ったら走って高校に行って、帰ってくるのは9時か10時くらい。

—高校を卒業した養成工の進路は？

■進学することもあったし、それぞれの出身地の会社に就職することも多かった。そのまま会社に残るのは1～2割しかなくて、はたから見ると何のために養成しよるんかというような。それでも養成工を受け入れ続けた山本集一さんという人は、偉い人じゃったなと思う。

## 建物について

—建物についての思い出が何かあれば。

■寮に大きな風呂場があったんよ (P.18)。立ち退きで壊したんじゃけど、あのデザインはすごかった。作りがあか抜けていた。みんなに人気があったんよ、一番。

■中は石でね、屋根は洋風でもあり和風でもありいう感じで。

■そーういや床が全部石張りじゃったな。

—お風呂は同時に何人も入れたのですか？

■そーう、20人以上入れる。

■風呂場でポイラーマンを2年したな。風呂焚き。2日にいっぺん沸かしよった。

—家族寮の3階に集会室がありますが、あそこは何に使ってましたか？

■今の社屋が建つまでは、会社には集まるどころなくて、何かあったらその3階を使っとった。

■労働組合の大会をしよったの。

■定期的なイベントだと、鞆（ふいご）祭り。

—鞆祭りとは？

■鞆は鉄を扱うには欠かせない道具でね、鍛冶屋や鋳物師からスタートしとる会社は皆お祭りをするんです。年1回。12月じゃったな？

■工場で神事をして、(家族寮の)3階で宴会になる。仕出しがなかったけえ、鞆祭りの弁当は折箱でしよったな。食堂のおばさんがごちそうを作ってずらっと並べて、みな座ってよばれる。社長が最初挨拶して、ちいと飲んだら、あの頃カラオケなんかないですから、民謡の上手な人が歌うたりね。

## 古き良き集住のかたち

—寮の建物を見ると、部屋を隔てるのが薄い障子一枚だけですが、鍵はかけなかったのですか？

■かけないかけない (笑)。

—では、誰の部屋にでも入れてしまう？

■そーう。プライベートは部屋の戸棚だけ。年配になると2つ使いよったんじゃないかな。新入生は1つ。

—所持持ちであってもやはり障子で区切られただけの部屋ですか？

■そーう、障子だけ。音が漏れても関係ない。それが当然で、何とも思ひよらんかった。モノがなくなったとかも聞いたことがない。

—じゃあもう全体で大家族のような？

■そーうじゃね。寮生が家族みたいな。ほいで、舎監さんが一人で最初からしまいまで管理したんです。

■本当にアットホームというかそんな感じで。その当時はそれなりの悩みも抱えとったと思うけど、今から思えば本当に楽しかった。

—楽しいお話の数々、ありがとうございます。

かつての自治寮の入口の様子。一番手前があるのが浴室 (P.18)



寮生6～8人が一つの部屋に寝泊まりする。私物はつくりつけの戸棚にしまっていた。



# 魅力的な建物を活かし、地域活性化をめざす。

## ヤマモトロックマシン旧自治寮活用プロジェクトの活動

多くの部屋が空室となり、傷みが進む旧自治寮を保存し、この優れた遺産を次世代に受け継ぐと共に、東城の活性化にも役立てたい。そんな思いを同じくする住民や工場OBが中心となり、2013年にこのプロジェクトは始まりました。旧自治寮の建物はどれも規模が大きく、掃除だけでも多くの手間と労力がかかります。幸いなことに、多くの人たちの共感を得て活動の輪が

広がったことでプロジェクトは前進し、2014年秋にはお披露目イベント「オープンフェスタ」を好評のうちに開催するに至りました。しかしながら、まだ私たちの活動は始まったばかりです。建物をどのように保存・活用するかという難しい課題はまだこれからであり、引き続き多くの方々のご支援をいただきながら前に進めていきたいと考えています。



旧自治寮でのお掃除会にて、外部からのボランティアの皆さんとともに。



プロジェクトの方向性や旧自治寮の活用方法を考えるため、主要メンバーや外部協力者があつまり、意見交換を重ねました。



旧自治寮は使ってなかった部屋も多く、まず掃除から。工場OBや外部ボランティアの人たちにも協力いただきながら、片付けと掃除を行いました。



2014年秋には「オープンフェスタ」を開催。旧自治寮を活用しながら対外的にアピールするため、作品展示や建物見学会を行いました。



建物見学会は県内外から多くの参加者を集めました。見学会は今後も継続して開催していく予定です。

### topics

## ひろしまたてものがたり セレクション 30 への選定

広島県内のすぐれた建物、訪れたい建物、訪れたい建物、訪れたい建物を公募しPRする県のプロジェクト「ひろしまたてものがたり」にてヤマモトロックマシン（工場部分）がベストセレクション30に選ばれました。県内でも指折りの「訪れたい建物」であることが裏付けられ、今後のPRに弾みがつくことが期待されます。

写真提供：広島県



## 国登録有形文化財

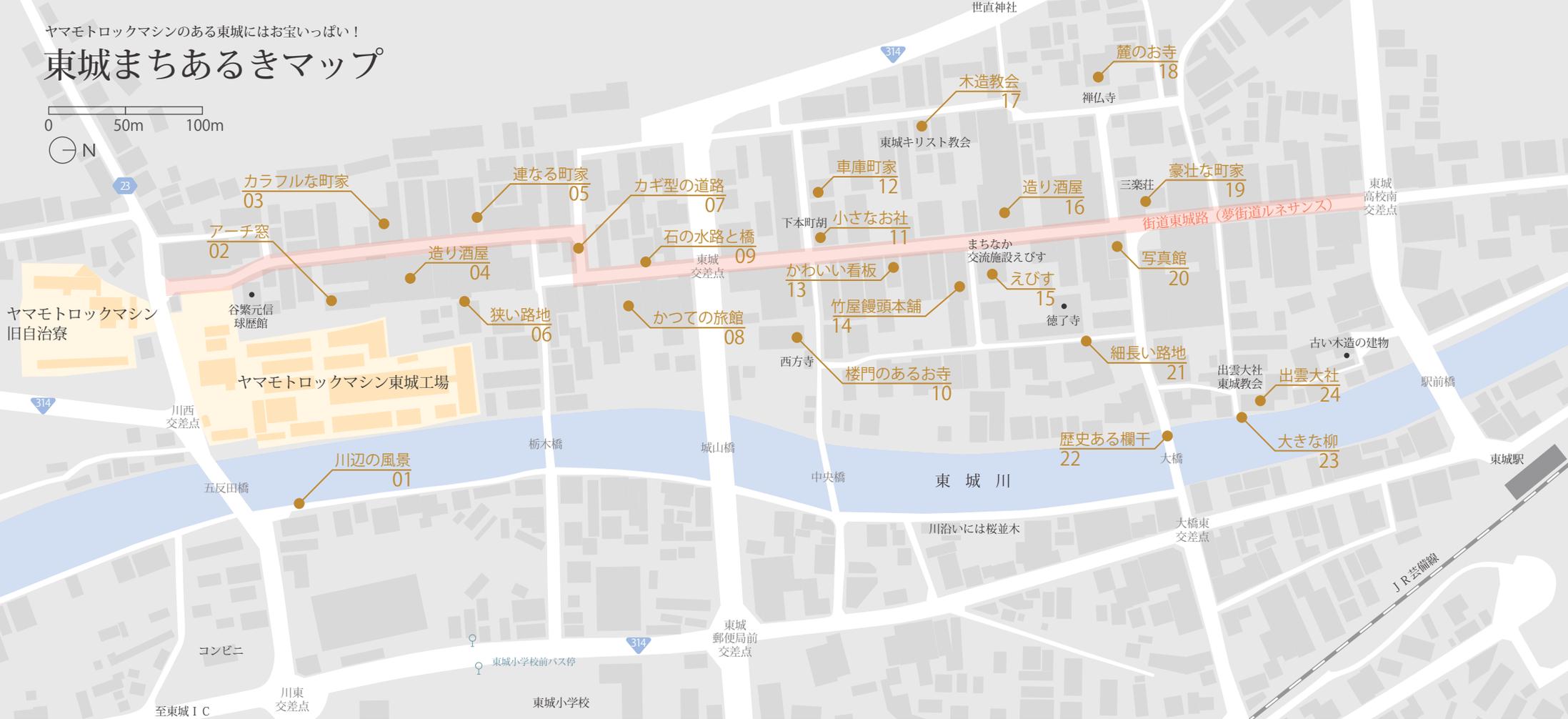
ヤマモトロックマシンの8つの建物（A 家族寮、B 单身寮、C 食堂・娯楽棟、D 第一工場、E 青年学校、F 第二工場、G 仕上工場、H 便所棟）が国の登録有形文化財となりました。（2016年2月25日付）



ヤマモトロックマシンのある東城にはお宝いっぱい！

# 東城まちあるきマップ

0 50m 100m



## 01 川辺の風景



今なお稼働するヤマモトロックマシンの工場群と、横を流れる東城川とが一体となり、独特な風景を形づくっています。

## 02 アーチ窓



山本鉄工所時代の建物。大きなアーチ窓が印象的です。

## 03 カラフルな町家



あざやかな黄色と、美しい漆喰装飾が特徴的な町家。「生熊ギャラリー」と名付けられ、時々展示のため開館しています。

## 04 造り酒屋



生熊酒造は、水がきれいので酒づくりが盛んだった東城に残る醸造所の一つです。道を挟んだ向かい側にも酒蔵や倉庫が並んでいます。

## 05 連なる町家



歴史ある町家建築が連なり、昔ながらの素敵なまちなみをつくっています。

## 06 狭い路地



東城には江戸時代以来の町割りが残っていて、細い路地があちこちにありま。住んでいる方々に配慮して、散策はお静かに。

## 07 カギ型の道路



折れ曲がっている。

表通りがカギ型に折れ曲がっています。これは見通しを悪くして攻めにくくするためで、城下町によく見られる形です。

## 08 かつての旅館



旅館として建てられた木造3階建て。現在はタクシー会社の事務所のような様子です。

## 09 石の水路と橋



道路脇の水路の一部に、往時のものと思われる石組みや石橋が残っています。石工の腕前がうかがえます。

## 10 楼門のあるお寺



東城浅野氏の菩提寺でもあった古刹。門は近くにある徳寺ともども二階建ての立派な「楼門」となっています。

## 11 小さなお社



まちかどにある小さな胡（えびす）神社。東城にはこれを含めて八つあり、往時の商業の繁栄ぶりをうかがわせます。

## 12 車庫町家



少し脇の道にはいると、メインストリートとはまた違う形で残る古い建物に出会います。これは車庫になっているようです。

## 13 かわいい看板



素朴な中にも愛らしい、商店の看板。2階のスチールサッシの風合いも素敵です。

## 14 竹屋饅頭本舗



江戸時代に創業した老舗の和菓子屋さんです。名物の竹屋饅頭は売り切れることも多いのでお早め。

## 15 えびす



「まちなか交流施設えびす」は観光案内所になっていて、トイレも借りられます。散策の際はまずここに立ち寄りましょう。

## 16 造り酒屋



北村醸造場は、水がきれいで酒づくりが盛んだった東城に残る醸造所の一つです。軒先の杉玉は造り酒屋の目印。

## 17 木造教会



東城キリスト教会は、山本鉄工所と同じ曾田敏郎が手がけた木造洋館です。窓の様子は尖頭アーチというゴシック風のデザイン。

## 18 麓のお寺



禅仏寺は山に上がっていく麓にあり、石段が印象的です。こういった風情あるたたずまいが、あちこちに残っています。

## 19 豪壮な町家



東城を代表する町家建築である三楽荘（旧保澤家住宅）。内部の数寄屋・書院の見事な装飾や庭園はじっくり鑑賞したい逸品。

## 20 写真館



三楽荘の向かい側にある写真館。昔は照明が弱かったため、このように北側に撮影用の大きな窓を付けるのが一般的でした。

## 21 細長い路地



表通りと平行に伸びる細長い路地。あちこちで井戸端会議が開かれている、生活に根ざした道です。

## 22 歴史ある欄干



大橋の欄干は昔の橋らしくしつかりと装飾が付けられ、とても見ごたえがあります。

## 23 大きな柳



川辺に立つ大きな柳の木。川の風景を引き締める大切なアクセントになっています。近くから見ると大迫力です。

## 24 出雲大社



出雲大社東城教会には縁結びの松として知られる二本の松の木があります。

ヤマモトロックマシンゆかりの景勝地をめぐる

# 帝釈峡散策マップ

県道23号でヤマモトロックマシンの目前に行けます。



帝釈峡には、山本鉄工所が削岩機開発に挑むきっかけとなった帝釈川ダムのほか、貴重な近代化遺産である神龍橋、天然記念物の雄橋、帝釈峡の名の由来となった永明寺など、さまざまな見どころがあります。東城とあわせてぜひ訪れたい地域です。

 災害等により遊歩道が一部通行止となっていることもあります。確認のうえご訪問ください。

## 01 帝釈川ダムの堰堤



1924年に完成した発電用ダムで、改修されて現役です。峡谷の切り立った岩盤を削るために多くの削岩機が使われたといえます。

## 02 崖を削った道



ダムへ向かう道は崖を削ったもの（山本鉄工所が修理した削岩機を使ったのかも…?）、今でも歩くことができます。

## 03 遊覧船



神龍湖には遊覧船があり、ダムや神龍橋を水上から眺めることができます。紅葉のシーズンは大変にぎわいです。

## 04 歴史ある店舗



湖畔には資料館やみやげ物店があります。とても味わい深いたたずまいです。近くにある旧道トンネルの雰囲気も魅力的。

## 05 桜橋



かつての車道を利用した遊歩道。昔の道の細さに驚かされます。周辺のトンネルも削った跡が荒々しく、時代を感じさせます。

## 06 神龍橋



1930年に架けられた紅葉橋を移設して遊歩道としたもの。地域開発史を語る近代化遺産であり、造形物としても優れています。

## 07 川辺の旅館街



永明寺の近くには旅館街があります。川沿いの風情あるたたずまいはとても魅力的です。

## 08 永明寺



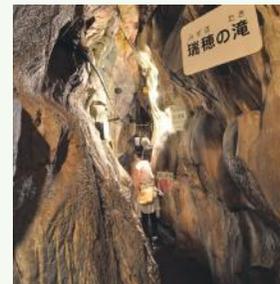
帝釈峡の名の由来でもある由緒ある寺院。精緻な装飾がすばらしく、思わず見とれてしまうほど。閉鎖されているのが残念。

## 09 賽の河原



永明寺の背後にそびえる巨大な岩盤脇の河原に小さな鍾乳洞があります。永明寺ともども神秘的な雰囲気を感じさせています。

## 10 白雲洞



帝釈峡を代表する大きな鍾乳洞で、中に入ることもできます。内部は意外に広く、夏でも涼しいです。

## 11 雄橋（おんばし）



上帝釈エリアのシンボル。川の浸食で岩盤に穴が開いてできた橋で、天然記念物となっています。とても神秘的な風景です。

## 12 時悠館



東城や帝釈峡の歴史（古代中心）や自然を紹介する資料館です。建物全体が丘に埋め込まれ、屋上は石で覆われています。

